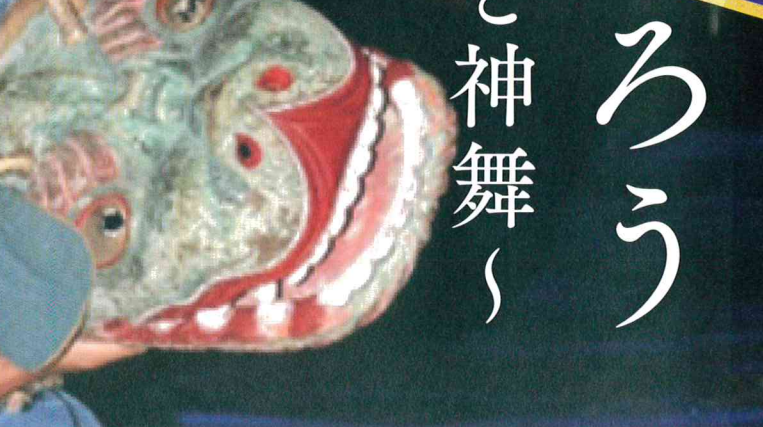


日本の神様と舞い踊ろう

地域に根付く神楽と神舞



鑑賞者無料ご招待(全席自由)
〈400名様〉

◆ 平成29年11月3日(金・祝)

◆ 13時半開演(16時終演予定)

◆ 会場：大濠公園能楽堂

(福岡市中央区大濠公園1番5号)

【参加団体】：志賀海神社御神楽

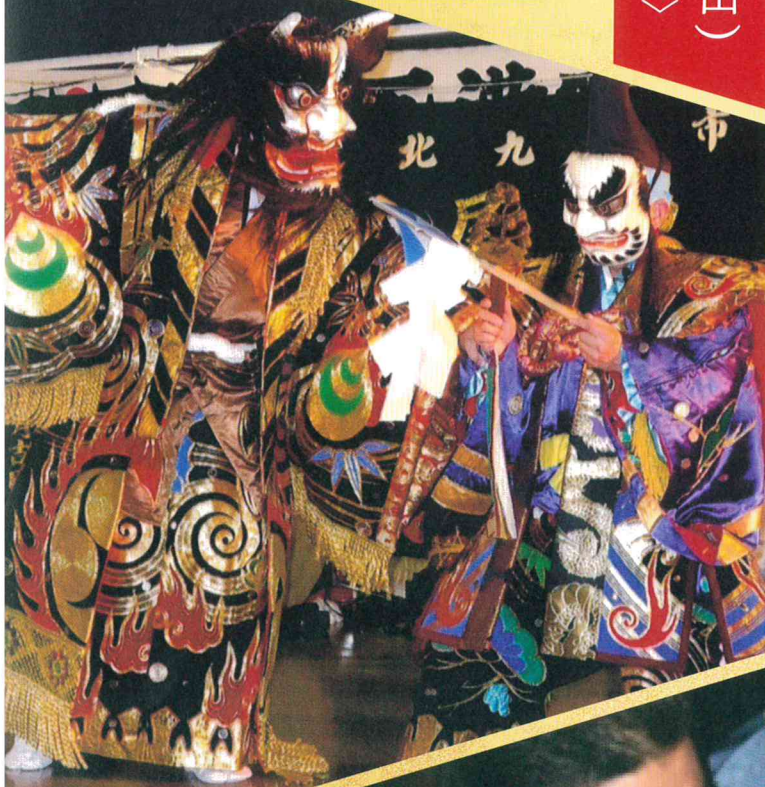
田島神楽

大内田岩戸神楽

折尾神楽

金印太鼓

【司会】：神田 紅(講師)



[主催]

公益財団法人
福岡文化財団
THE FUKUOKA CULTURAL FOUNDATION

西日本FH

ココロがある。コタエがある。
西日本シティ銀行



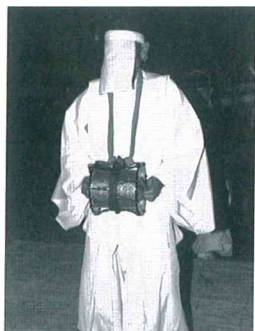
QRコードを読み取ると、
昨年の映像をご覧いただけます。



「協賛」 福岡県 福岡県教育委員会 公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団

◆ 参加団体のご紹介(順不同) ◆

< 神様の舞 >



志賀海神社御神楽 (福岡市東区志賀島)

【曲目】「龍の舞」(たつのまい) ~無形民俗文化財~

本来、神慮を慰める舞楽の座を清め祓う獅子舞であったものが志賀島固有の龍神信仰に影響されこれが龍頭になるように頭に鹿の角を刺したと思われる。

【曲目】「八乙女の舞」(やおとめのまい)

神功皇后出兵の際、海神に捧げた世襲制の八人の乙女の神楽舞い。

【曲目】「鞆鼓の舞(磯良の舞)」(かっこまい いそらのまい) ~無形民俗文化財~

神功皇后出兵の際、阿曇磯良が召されますが、磯良は永らく海底に住んで体中が海藻や貝類に覆われていたため、神々の前に現れることを恥じ、顔を白布で覆い、鞆鼓を胸に舞います。神社の由緒によれば諸社における芸能の根源と言われる舞いです。

< 神楽 >



田島八幡神社奉納「田島神楽」~無形民俗文化財~ (福岡市城南区田島)

【演目】「高所」(こうしょ)

奉納する神社の祭神の御神徳を讃える舞い神楽。神楽歌を謡曲調で歌いながら、五穀豊穡を祈念する舞いです。



大内田太祖神社奉納「大内田岩戸神楽」~無形民俗文化財~ (福岡県田川郡赤村)

【演目】「地割」(ぢわり)

地上を司る木・火・金・水・土の5人の神が四季の領域を巡り白刃を振るって戦いを起こします。このとき伊邪那美の命は、各神の領域を定め、四人の神の持ち分(3か月)から春夏秋冬が立つ前の18日を土の神に与えこれが土用になりました。

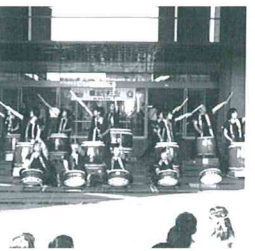


「折尾神楽」(北九州市八幡西区折尾)

【演目】「道がえし」(ちがえし)

武甕槌(たけみかづち)の命が、全国各地を荒らしまわっている大悪鬼を退治する神楽。神楽では珍しく鬼が降参し人間を食う代わりに九州高千穂にある稲穂(コメ)を食いと許され、鬼は喜んで高千穂に向かいます。

< 特別出演 >



「金印太鼓」(福岡市東区志賀島)

歴史の島、志賀島勝馬を本拠に活動しています。現在、小学校2年生から73歳までの30人が、聴いて下さる方の心と共鳴する演奏を目指して、日夜練習に励んでいます。

【演目】「伝」 音を伝える、心を伝える・・太鼓の響きを心を込めてお届けします。全員が一生懸命打ち出す太鼓の響きが皆様の心に響きますように。

【演目】「azumi」 志賀島勝馬海岸にある沖津宮、その前にある古墳の中津宮、これに志賀海神社を加えわだつみ三神と言われています。この国の彼方此方に志賀、安曇の名を伝える地名があり国の始祖の地を感じます。Azumiは、永らく志賀島に伝わってきた文化と、志賀島から見える久遠の海をイメージして作曲しました。

お申込み方法

平成29年10月6日(金)必着

①お名前 ②年齢 ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号 ⑥参加人数(5名様まで/ご本人様含む)を明記の上、お申込みください。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

●ハガキ 宛先 〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1-15F
西日本新聞メディアラボ内「日本の神様と舞い踊ろう」事務局

●メール MAIL info@bunka-zaidan.or.jp ※件名を「日本の神様と舞い踊ろう申込」としてお送りください。

●FAX (FAX送付先:092-731-2232)

FAX専用お申込み用紙

※このまま切らずにお送りください。

■お名前	■年齢
■ご住所 〒	
■電話番号	■参加人数(ご本人様含む) 名

- ご記入いただいた個人情報は、本イベントの運営以外には使用いたしません。
- 当選者には10月中旬に直接招待券を発送し、発表とかえさせていただきます。

お問合せ

西日本新聞メディアラボ内
日本の神様と舞い踊ろう事務局

TEL 092-753-6120 (平日のみ 9:30~17:30)